

世界を魅了した浮世絵

モネの睡蓮などを観ていると気持ちが穏やかになり、ゴッホの迫力ある厚塗りの大胆な作品を観たときには感動を覚えます。機会をみては美術館へ足を運び鑑賞するようになりました。印象派のモネやゴッホなどは世界の人々に愛されています。特に、日本人に人気があるのはなぜでしょうか。

浮世絵は、江戸時代の庶民生活や風俗、流行を題材としました。その魅力は、鮮やかな色彩、大胆な構図、職人技による表現にあります。庶民の生活や風俗を生き生きと描き出し、現代でも多くの人を魅了しています。また、浮世絵の斬新な表現が西洋の画家たちに影響を与え、印象派の誕生にも貢献したと言われています。モネは浮世絵コレクターであり、アトリエには多くの浮世絵が飾られていました。ゴッホも弟のテオと共に400点以上の浮世絵を熱心に収集しました。

モネやゴッホが日本人に人気があるのは、浮世絵に影響を受けているからと言われています。モネの作品「睡蓮」シリーズには、浮世絵の影響を受けた構図や色彩が見られます。浮世絵に心酔していたゴッホは、浮世絵を模写して自身の作品に取り入れたことなど、日本美術との共通性や関連性が日本人にとって親しみやすさを感じさせるからだと思います。

教育会館名画セミナーは、今年で第14回となります。この名画セミナーを待ち望む人も多く、林綾野さんの熱意と充実した内容により今日まで継続できました。浮世絵については、第5回名画セミナーでも開催しました。当時、林綾野さんは、テレビNHK趣味どきっ!「旅しよう!おいしい浮世絵」に案内人として出演し、浮世絵鑑賞の楽しさを広げる活動をしていました。

第14回教育会館名画セミナー「浮世絵を楽しむ」は、10月12日(日)に開催します。江戸の暮らしや習慣、文化や流行が色鮮やかに描き出される浮世絵の世界。本講座では、浮世絵をより楽しく鑑賞するきっかけとして「食」のシーンを描いたものに着目します。春夏秋冬にみる江戸の味わい、江戸に誕生した食文化の裏事情などをヒントに、北斎や広重、豊国や国芳などが描いた浮世絵を思い切り楽しんでみませんか。

